

Ⅰ.「日本語教育の参照枠」について理解する

令和5年度 文化庁日本語教育大会 オンラインワークショップ

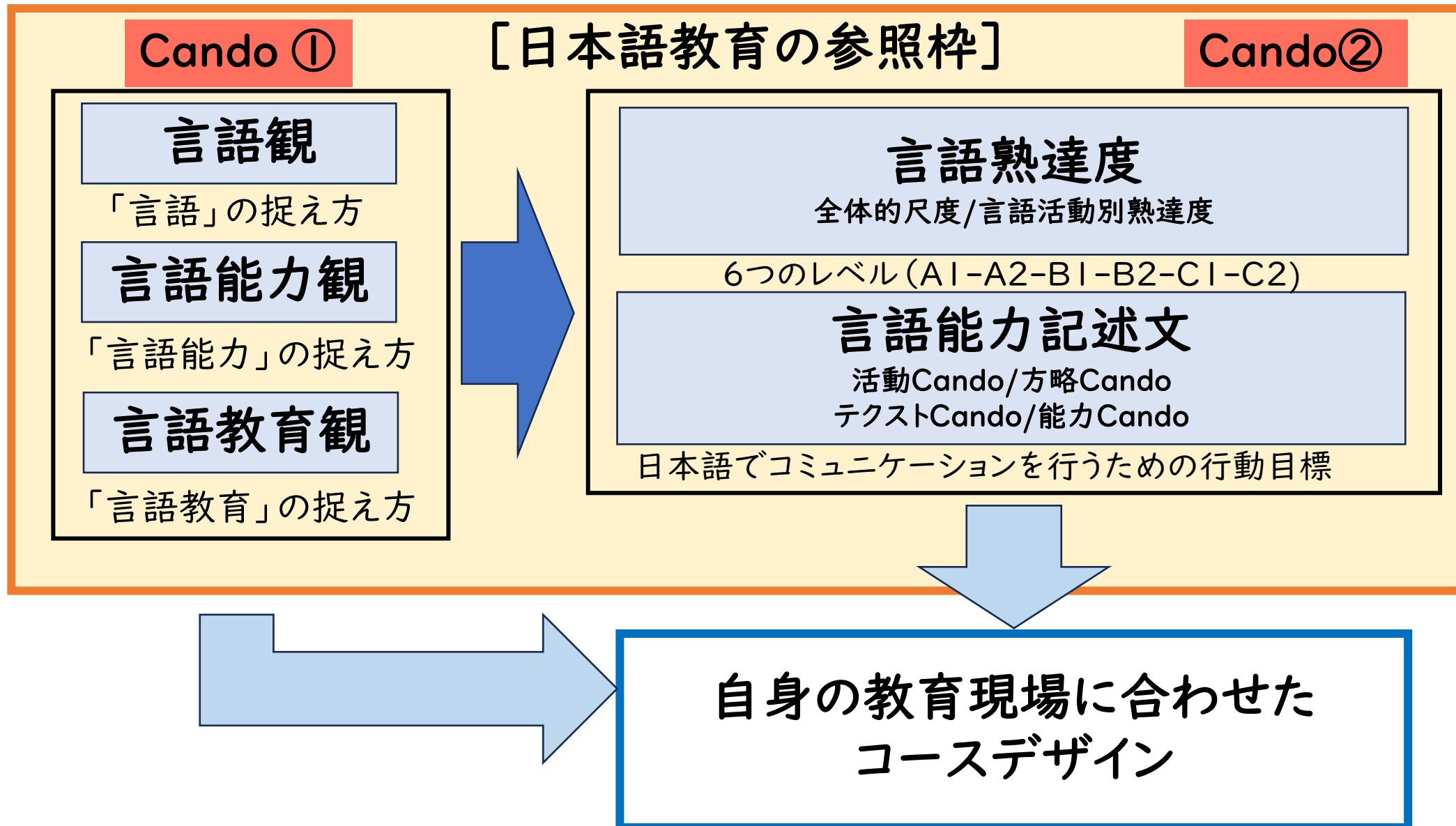
担当講師:佐藤智照(島根大学外国語教育センター)

この時間のねらい

Can do① 「参照枠」の言語観、言語教育観を理解する。

Can do② 「参照枠」の6つのレベル、Candoの特徴を理解する。

日本語教育の参照枠に対応したコースデザイン



1. 「参照枠」の言語観、言語教育観

『「日本語教育の参照枠」の概要』抜粋



「日本語教育の参照枠」の概要

「日本語教育の参照枠」とは

CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）※を参考に、日本語の習得段階に応じて求められる日本語教育の内容・方法を明らかにし、外国人等が適切な日本語教育を継続的に受けられるようにするため、日本語教育に関わる全ての者が参照できる日本語学習、教授、評価のための枠組み。文化審議会国語分科会日本語教育小委員会で令和元年から検討を開始し、令和3年10月に最終報告を取りまとめた。令和4年1月に活用するための手引きの取りまとめを行い、令和4年11月に約800項目の「生活Can do」を作成するとともに、自己評価チェックツールの開発を行った。

*CEFRとは

ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR: Common European Framework of Reference for Languages）は、欧州評議会によって20年以上にわたる研究と検証の末に開発され2001年に開かれた。現在では40もの言語で翻訳されている。また、CEFRは語資格を承認する根拠にもなるため、国境や言語の枠を超えて、教育や就労の流動性を促進することにも役立っている。

「日本語教育の参照枠」

全体的な尺度（抜粋）

日本語能力の熟達度について6レベルで示したもの

5つの言語活動

（言語活動別の熟達度を示す）

聞くこと

読むこと

話すこと（やりとり）

話すこと（発表）

書くこと

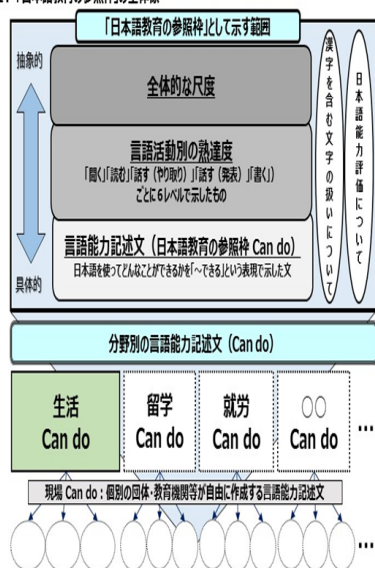
期待される効果

- 国内外共通の指標・包括的な枠組みが示されたことにより国や教育機関を移動しても継続して適切な日本語教育を受けることができる。
- 生活・就労・留学等の分野別の能力記述文（Can do）が開発され、生活者・就労者・留学生等に対する具体的な効果的な教育・評価が可能になる。
- 日本語能力が求められる様々な分野で共通の指標に基づく評価が可能となり、試験間の通用性が高まる。
- 適切な日本語能力判定の在り方が示されたことにより試験の質の向上が図られる。

国内外における日本語教育の質の向上を通して、共生社会の実現に寄与する。

※各レベルについての説明は、CEFR日本語版（追補版）の訳文を基に、CEFR補遺版を参考に一部修正を加えた。

1. 「日本語教育の参照枠」の全体像



2. 日本語能力評価について

- 「日本語教育の参照枠」における言語教育観に基づく評価の理念
 - ①生涯にわたる自律的な学習の促進
 - ②学習の目的に応じた多様な評価手法の提示と活用促進
 - ③評価基準と評価手法の透明性の確保
- 「日本語教育の参照枠」における日本語能力観と評価の考え方（事例）
- 日本語能力の判定試験と「日本語教育の参照枠」の対応関係を示す方法
- 社会的ニーズに応える適切な日本語能力判定の在り方について

全ての者が参照できる
学習、教授、評価のための枠組み

全体的な尺度（熟達度）
言語活動別の熟達度

6レベル

言語能力記述文（目標・評価）

学習・教授・評価の枠組み:「多様性の中の統合」

言語の多様性

学習者の多様性

言語教育の多様性

多様性の中の統合
United in diversity

第二次世界大戦以後の欧州の主題。
欧州連合(EU)のモットー。

CEFR

Common European Framework of Reference for Languages
外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠

日本語教育の参照枠

日本語教育の多様性

多様性の中の統合

日本語教育の参照枠

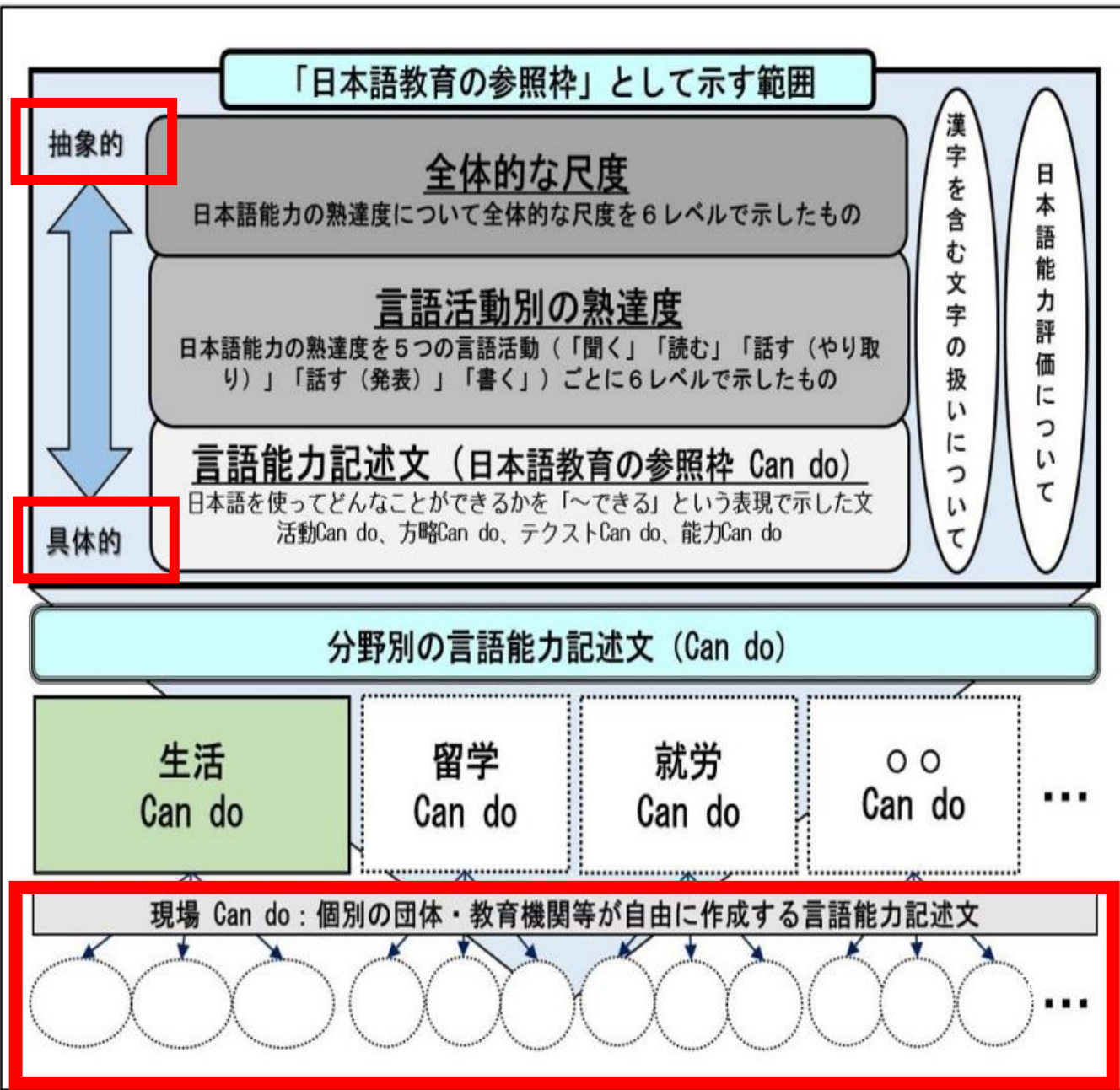
日本語能力の熟達度の指標（共通の枠組み）
（全体的尺度・言語活動別熟達度・言語能力記述文）

学習者の
多様性

日本語使用の
多様性

評価の
多様性

多様性の中の統合



「日本語教育の参照枠」構成図

共通の枠組み

余白

コース設計者

言語観

言語能力観

言語教育観

言語熟達度

自身の教育現場に合う
コースデザイン

- ・学習者や学習目標の多様性
- ・日本語使用の多様性
- ・評価の多様性 など

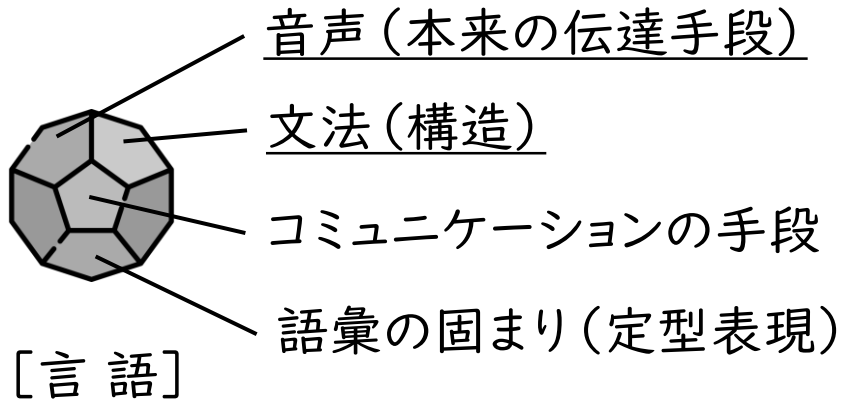
言語観・言語教育観・言語能力観で言語教育が異なる

言語教育

[参考] Richards&Rogers (2001)

例) オーディオリンガル・メソッド(1950年代~)

a.言語観



b.言語教育観

目標=文法(構造)の習得
口頭産出(本来の伝達手段)

c.言語能力観

言語能力=文型・語彙などの知識
口頭産出(本来の伝達手段)

d.デザイン

※カリキュラムとシラバス

計画

シラバス=文法シラバス

実行

評価

評価=文型・語彙などの知識

全体的尺度(抜粋)

書きぶりから見える言語観・言語教育観
言語のどの側面に着目していますか？

熟達した 言語使用者	C2	聞いたり読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。自然に流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えず、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。
自立した 言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。
	B1	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。
基礎段階の 言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な要求を満足させるための、よく使われる日常的な表現と基本的な言い回しを理解し、用いることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

「日本語教育の参照枠」で示された言語教育とは

多様性のなかの統合
共通認識

言語教育

a. 言語観



言語=コミュニケーションの手段

↓ [参考] Wilkins (1976)

言語運用=社会的行動

社会で目的を持って行われる行為



言語使用者=社会的存在
学習者

b. 言語教育観



行動中心アプローチ

社会的課題の遂行が目標

課題遂行に必要なものから学ぶ

c. 言語能力観

言語能力記述文(Cando)

言語を使って何ができるか

d. デザイン

計画

プロフィール

バックワードデザイン

実行

評価

評価の多様性

ルーブリック評価

社会的課題とは

必要性・目的



社会的課題



明確な成果

- ▶ 個人が必要性を認め目的をもって行う言語的・非言語的行為。
- ▶ 一定の明確な成果を伴う言語的・非言語的行為。(Goulier, 2008)

[解決が必要な問題・果たすべき義務・達成すべき目的]

例) 買い物をする、交通機関を利用する、
地域社会・学校・職場などでより良い人間関係を構築する、
職を得て働き、収入・やりがいを得る、
教育を受け教養を身に付けるなど、多岐にわたる。(「日本語教育の参照枠」報告)

私たちはどのようにして社会的課題を遂行するのか

「社会的に行動する者・社会的存在」 (欧州評議会, 2014)

一定の与えられた条件、特定の環境、また特殊な行動領域の中で、
(言語行動とは限定されない) 課題を遂行・完成することを要求されている社会の成員

人は個人としてまた社会的存在として一連の能力 (competences) を持っているが、

それには一般的能力 (general competences) と、特別なものとして、コミュニケーション 言語能力 (communicative language competences) の二者がある。

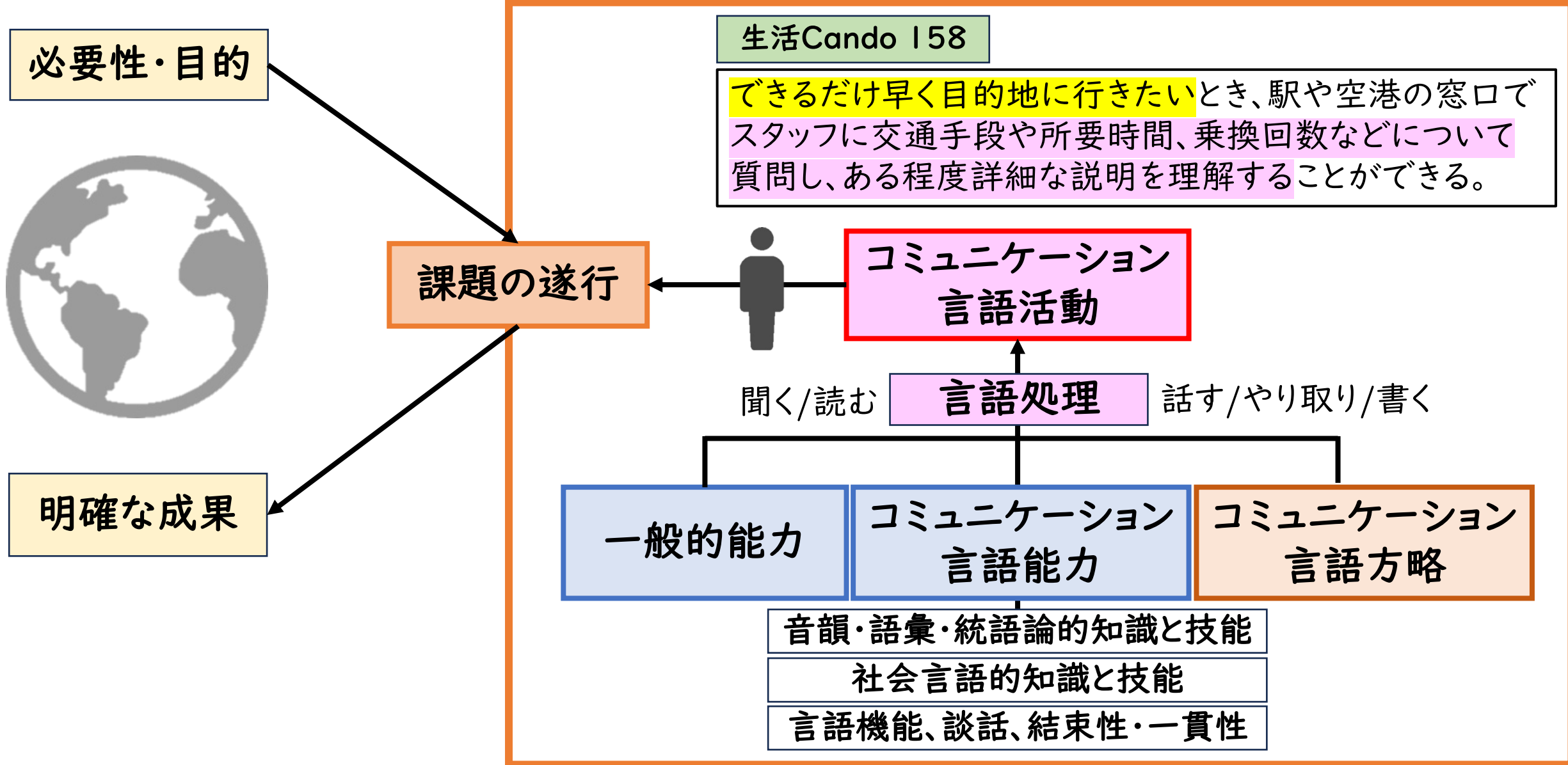
そして、各自が利用できる能力を使いながら、さまざまなコンテキストで、さまざまな条件 (conditions) 下で、さまざまな制約 (constraints) の下に言語活動 (language activities) に携わる。

その際 テキスト (texts) を産出するか、あるいは受容するという言語処理 (language processes) に携わることになる。そこで作られるテキストは特定の生活領域 (domains) に属するテーマ (themes) と関連する。

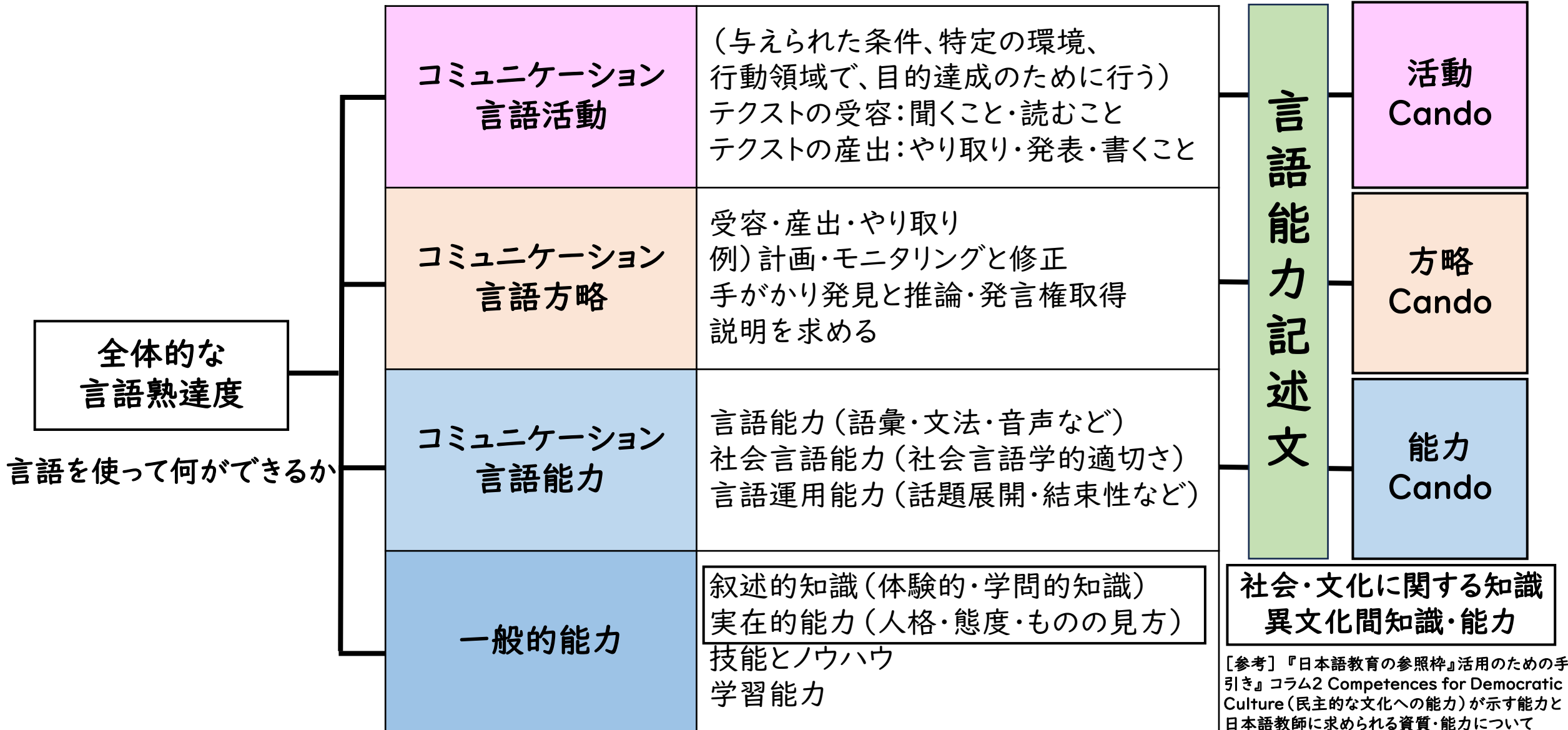
また、その際、課題 (tasks) の成就を目指して最も有効と思える方略 (strategies) を使う。

(欧州評議会, 2014)

私たちはどのようにして社会的課題を遂行するのか



「言語熟達度を構成する能力」と言語能力記述文



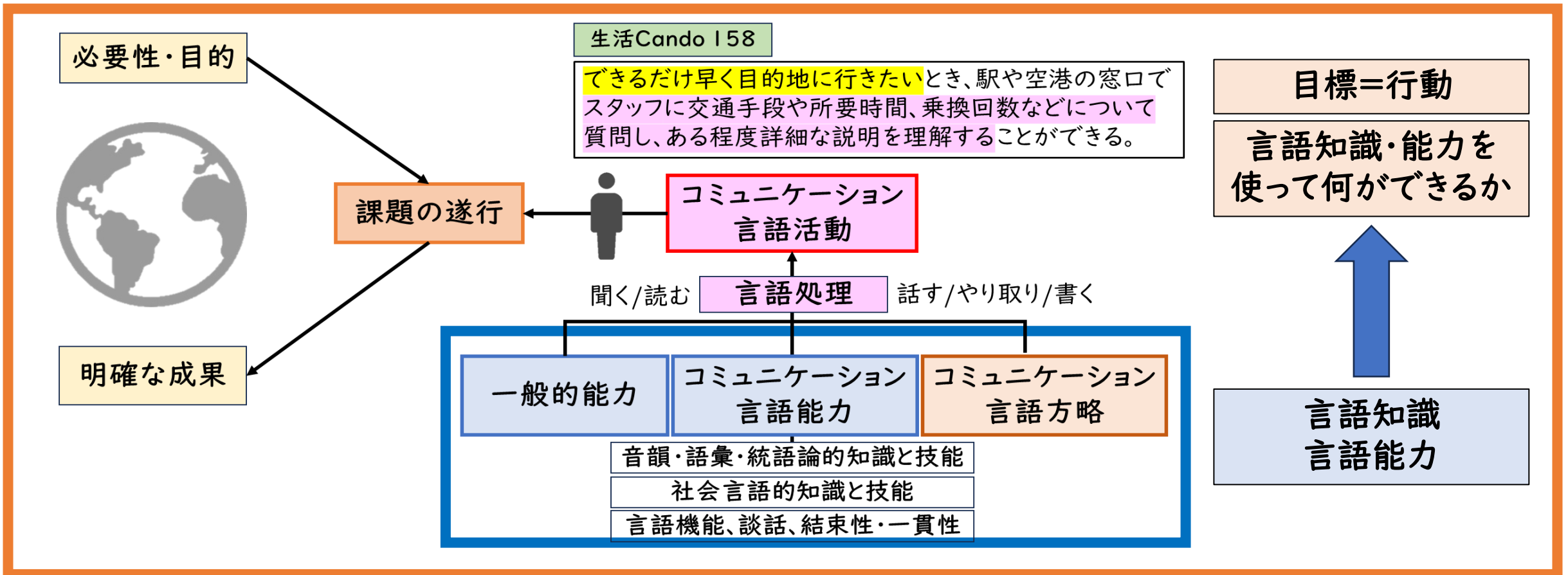
「日本語教育の参照枠」の言語能力記述文

活動 Can do	言語活動についての言語能力記述文 「聞く」、「読む」、「話す（やり取り）」、「話す（発表）」、「書く」の五つの言語活動ごとに「広報・アナウンスや指示を聞くこと」、「説明書を読むこと」、「情報の交換」、「長く一人で話す：経験談」、「通信」などのカテゴリーを設けている。
方略 Can do	言語使用の際のストラテジーについての言語能力記述文 方略とは、分からない言葉を推測したり、質問したり、あるいは聞き取りにくい言葉について聞き返したりするなどの行動を指す。CEFRでは、「モニタリングと修正」、「手掛かりの発見と推論（話し言葉と書き言葉）」、「発言権の取得・保持」、「説明を求めること」などのカテゴリーがある。
テキスト Can do	一まとまりの表現を扱うことについての言語能力記述文 話し言葉、書き言葉についての一まとまりの表現を扱う能力（要約、言い換え、書き写し）を示した言語能力記述文。「ノート取り（講義やセミナー）」、「テキストの処理」というカテゴリーを設けている。
能力 Can do	言語能力、社会言語能力、言語運用能力についての言語能力記述文 「使用語彙領域」、「文法的正確さ」、「音素の把握」、「正書法の把握」、「社会言語能力」、「発言権」、「話題の展開」、「話し言葉の流ちょうさ」、「叙述の正確さ」などのカテゴリーを設けている。

（「日本語教育の参照枠」報告）

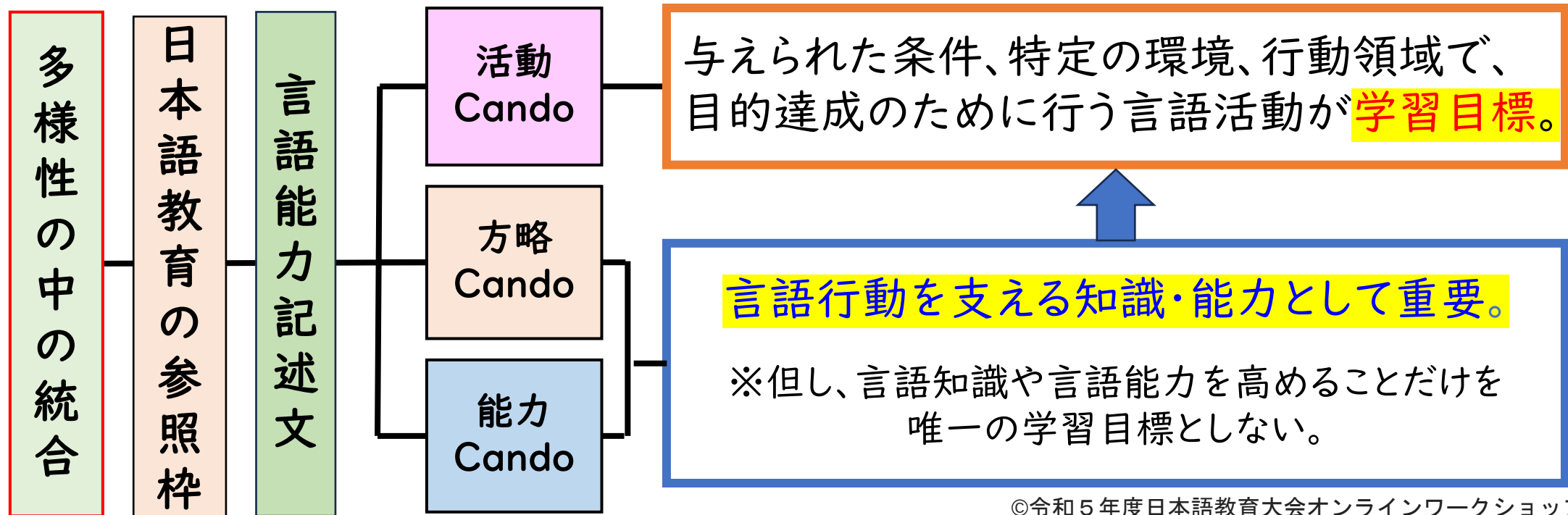
課題遂行を目標とする言語教育：行動中心アプローチ

- 目標＝求められる社会的課題の遂行(行動)ができるようになる。
- 言語知識を持っていることよりも知識を使って何ができるかに着目。



行動中心アプローチ

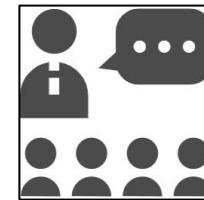
- ▶ 目標＝それぞれが求められる社会的課題の遂行（行動）。
- ▶ 言語知識を持っていることよりも知識を使って何ができるか。
- ▶ 文法や語彙の難易度、言語活動間のバランスにかかわらず、課題を遂行するために必要な事柄から学ぶ。



2.「参照枠」の6つのレベル、Candoの特徴

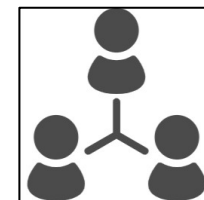
—レベルの特徴・ワークの解説・実践—

ワーク1 : 「全体的な尺度」のレベルを把握する
6つのレベルの特徴を理解する



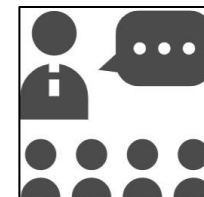
解説

ワーク2 : 「言語活動別の熟達度」から
言語活動ごとのレベルを把握する



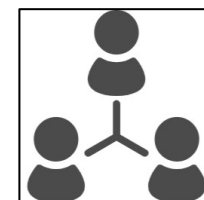
ワーク

ワーク3 : 「日本語教育の参照枠Can do」の
レベルを把握する



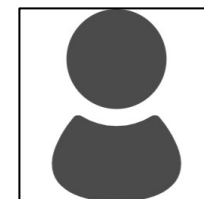
解説

ワーク4 : 「生活Can do」のレベルを把握する



ワーク

ワーク5 : 具体的な言語行動からレベルを判定する
「つながる ひろがる にほんごでの暮らし」



個人

言語能力記述文(活動Cando)を分析する

活動Candoの記述文は4要素に分けられる ※1つの記述文に4要素が全て含まれるわけではない。

要素	定義	「Cando記述の特徴」の例
①条 件 Condition	このような条件が整っていれば	・もし、話が標準語で、発音もはっきりしていれば ・はっきりとゆっくりと話してもらえれば ・何らかの助け舟を出してくれる人がいるなら
②話題/場面 Topic/setting	このような話題に関して このような場面・状況で	・自分の周りでの ・身近で個人的に関心のある話題について ・当該言語圏の旅行中に
③対 象 Object	この程度のもの(素材・テキストタイプ)を	・長い議論の要点 ・簡単なプレゼンテーション ・ラジオやテレビ番組の要点
④行 動 Action	この程度××することができる	・普通に理解できる。 ・簡単な字句を並べて述べることができる ・細かいところまでできる。

※North(2000)では1)行動、2)話題・場面、3)行動の3要素が示されたが、
塩澤・石司・島田(2010)では、行動をさらに対象と行動の2つに分類した。

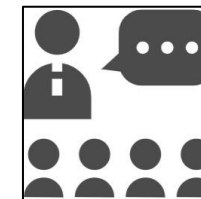
(塩澤・石司・島田(2010)表3 Candoの要素)

言語能力記述文(活動Cando)のレベル別特徴

[参考]
塩澤・石司・島田(2010) 福島(2011)

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C2	[高度な言語・談話能力] C2: <u>容易さ、細かなニュアンス 深く社会に参加</u> C1: <u>流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加</u>	制約を受けずに 課題遂行が可能	[全般] C2: <u>ほぼすべて</u> C1: <u>複雑、高度</u>	[長文・詳細・構成] C2: <u>細かいニュアンス、 慣用的表現、俗語</u> C1: <u>精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意</u>	[流暢に・正確に・軽く] C2: <u>軽く、正確に</u> C1: <u>流暢さ、発言権の保持 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い</u>
C1					
B2	[自己表現] B2: <u>他者の視点、他者との協働</u> B1: <u>個性を持った個人、 自立した生活者</u>	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2: <u>読み返すことができれば 辞書を使うことができれば</u>	[抽象的・専門的] B2: <u>自身の専門、 技術的、抽象的</u> [身近な・関心] B1: <u>個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処</u>	[テキスト・詳細・視点] B2: <u>明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場</u> [テキスト・要点・意見] B1: <u>短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由</u>	[維持・効果的] B2: <u>意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点</u> B1: <u>会話の維持、 言いたい事をわからせる</u>
B1		相手の話し方や環境が 言語活動を制約する			
A2	[社会参入] A2: <u>やや能動的な生活者</u> A1: <u>受け身の個人</u>	B1: <u>はっきりとした共通語</u> A2: <u>はっきりとゆっくり</u> A1: <u>非常にゆっくり</u>	[具体的・日常的] A2: <u>日常、予測可能な、 直接関係ある</u> A1: <u>個人的情報、 自分自身に関する</u>	[単純・表現・大まか] A2: <u>よく使われる、文・表現、 簡単なメッセージの要点</u> A1: <u>基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容</u>	[受動的] A2: <u>やや能動的</u> A1: <u>受け身</u>
A1					

ワーク1:「全体的な尺度」のレベルを把握する



解説

レベル: (B1)

仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、大抵の事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

レベル: (A1)

具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

レベル: (C2)

聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流ちょうかつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。

レベル: (B2)

自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、様々な選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。

レベル: (A2)

ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

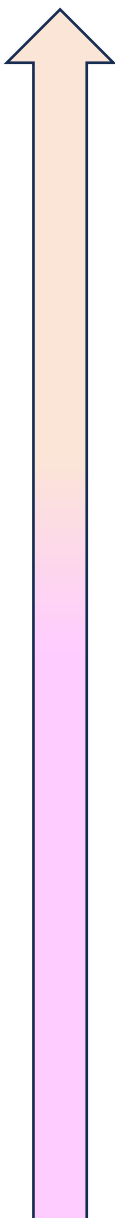
レベル: (C1)

いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流ちょうに、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法を使いこなせていることがうかがえる。

言語能力記述文(活動Cando)のレベル別特徴

[参考]
塩澤・石司・島田(2010) 福島(2011)

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C2	【高度な言語・談話能力】 C2:容易さ、細かなニュアンス 深く社会に参加	制約を受けずに 課題遂行が可能	【全般】 C2:ほぼすべて C1:複雑、高度	【長文・詳細・構成】 C2:細かいニュアンス、 慣用的表現、俗語 C1:精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意	【流暢に・正確に・軽く】 C2:軽く、正確に C1:流暢さ、発言権の保持 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い
B2	【自己表現】 B2:他者の視点、他者との協働	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	【抽象的・専門的】 B2:自身の専門、 技術的、抽象的	【テキスト・詳細・視点】 B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場	【維持・効果的】 B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点
B1	B1:個性を持った個人、 自立した生活者	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する	【身近な・関心】 B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	【テキスト・要点・意見】 B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
A2	【社会参入】 A2:やや能動的な生活者	B1:はっきりとした共通語 A2:はっきりとゆっくり A1:非常にゆっくり	【具体的・日常的】 A2:日常、予測可能な、 直接関係ある A1:個人的情報、 自分自身に関する	【単純・表現・大まか】 A2:よく使われる、文・表現、 簡単なメッセージの要点 A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	【受動的】 A2:やや能動的 A1:受け身
A1	A1:受け身の個人				



レベル：（ **A2** ）

ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。
自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
A2	[社会参入] A2: やや能動的な生活者	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する A2: はっきりとゆっくり	[具体的・日常的] A2: <u>日常、予測可能な、 直接関係ある、</u>	[単純・表現・大まか] A2: <u>よく使われる文・表現、 簡単なメッセージの要点</u>	[受動的] A2: <u>やや能動的</u>
A1	A1: <u>受け身の個人</u>	A1: <u>非常にゆっくり</u>	A1: <u>個人的情報、 自分自身に関する</u>	A1: <u>基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容</u>	A1: <u>受け身</u>

レベル：（ **A1** ）

具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。



レベル：（ **B2** ）

自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、様々な選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
B2	[自己表現] B2:他者の視点、他者との協働 B1:個性を持った個人、 自立した生活者	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	[抽象的・専門的] B2:自身の専門、 技術的、抽象的 [身近な・関心] B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	[テキスト・詳細・視点] B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場 [テキスト・要点・意見] B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	[維持・効果的] B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点 B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
B1		相手の話し方や環境が 言語活動を制約する B1:はっきりとした共通語			

レベル：（ **B1** ）

仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、大抵の事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。

レベル：（ **C2** ）

聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。

自然に、流ちょうかつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。

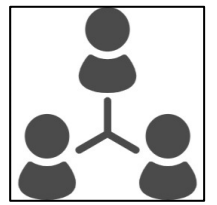
	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C2	〔高度な言語・談話能力〕 C2: <u>容易さ、細かなニュアンス</u> 深く軽く社会に参加	制約を受けずに 課題遂行が可能	〔全般〕 C2: <u>ほぼすべて</u> C1: <u>複雑、高度</u>	〔長文・詳細・構成〕 C2: <u>細かいニュアンス、 慣用的表現、俗語</u>	〔流暢に・正確・軽く〕 C2: <u>軽く、正確に</u>
C1	C1: <u>流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加</u>			C1: <u>精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意</u>	C1: <u>流暢さ、発言権の保持 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い</u>

レベル：（ **C1** ）

いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流ちょうに、また自然に自己表現ができる。

社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について明確で、
しっかりとした構成の、詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法を使いこなせていることがうかがえる。

ワーク2: 言語活動別の熟達度から 言語活動ごとのレベルを把握する



ワーク

ワーク2 「言語活動別の熟達度」から言語活動ごとのレベルを把握する

「全体的な尺度」で全体的なレベル感を掴んだら、次は「言語活動別の熟達度」で言語活動ごとのレベルを把握します。下の5つの言語活動ごとの言語能力記述文のレベルを記入してください。

活動	言語能力記述文	レベル
聞く (トイヘ)	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	A1
	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	B1
	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの) 直接自分につながるのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	A2
読む (トヨミ)	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	B2
	例えば、掲示やポスター、カタログの中よく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	A1
話す (トコナウ) (トコナヒ)	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。	B1
	記ったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	B1
	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話合いができる。通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	A2
	言葉を殊更探さずに流ちょうに自然に自己表現ができる。社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言に合わせる事ができる。	C1
	流ちょうに自然に会話をする事ができ、熟達した日本語話者と普通にやり取りができる。身近なコンテキスト(文脈・背景)の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。	B2
(多量な) 書く (オホシヤク)	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。	A1
	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	A2
	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	B2
	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	A1
書く (トキテ)	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる。	B1
	意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。	B1
	物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。	B1
	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。短い個人的な手紙なら書くことができる：例えば礼状など。	A2
	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。	A1
書く (トキテ)	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。	B1
	私信で経験や印象を書くことができる。	B1

言語能力記述文(活動Cando)のレベル別特徴

【参考】
塩澤・石司・島田(2010) 福島(2011)

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C2	[高度な言語・談話能力] C2:容易さ、細かなニュアンス 深く社会に参加	制約を受けずに 課題遂行が可能	[全般] C2:ほぼすべて C1:複雑、高度	[長文・詳細・構成] C2:細かいニュアンス、 慣用的表現、俗語 C1:精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意	[流暢に・正確に・軽く] C2:軽く、正確に C1:流暢さ、発言権の保持 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い
C1	C1:流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加				
B2	[自己表現] B2:他者の視点、他者との協働	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	[抽象的・専門的] B2:自身の専門、 技術的、抽象的 [身近な・関心] B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	[テキスト・詳細・視点] B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場 [テキスト・要点・意見] B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	[維持・効果的] B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点 B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
B1	B1:個性を持った個人、 自立した生活者				
A2	[社会参入] A2:やや能動的な生活者	B1:はっきりとした共通語 A2:はっきりとゆっくり A1:非常にゆっくり	[具体的・日常的] A2:日常、予測可能な、 直接関係ある A1:個人的情報、 自分自身に関する	[単純・表現・大まか] A2:よく使われる、文・表現、 簡単なメッセージの要点 A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	[受動的] A2:やや能動的 A1:受け身
A1	A1:受け身の個人				



赤字部分を参考に①記述文のどこに、
②各レベルのどのような特徴が表れているかを
指摘しましょう。

赤字部分を参考に①記述文のどこに、②各レベルのどのような特徴が、表れているかを指摘しましょう。

活動	言語能力記述文	レベル
聞くこと	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する 条件・制約 あり 話題 個人的情報・具体的 聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。 対象 語・表現 行動 やや受動的 サンプル	A1
	仕事、学校、娯楽でふだん出合うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	B1
	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの) 直接自分につながりのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	A2

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
B1	自己表現 B1:個性を持った個人、 自立した生活者	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する B1:はっきりとした共通語	身近な・関心 B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	テキスト・要点・意見 B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	維持・効果的 B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
A2	社会参入 A2:やや能動的な生活者	A2:はっきりとゆっくり A1:非常にゆっくり	具体的・日常的 A2:日常、予測可能な、 直接関係ある、	単純・表現・大まか A2:よく使われる文・表現、 簡単なメッセージの要点	受動的 A2:やや能動的
A1	受け身の個人 A1:受け身の個人		A1:個人的情報、 自分自身に関する	A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	A1:受け身

赤字部分を参考に①記述文のどこに、②各レベルのどのような特徴が、表れているかを指摘しましょう。

活動	言語能力記述文	レベル
読むこと	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	B2
	例えば、掲示やポスター、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	A1
	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。	B1
	起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
B2	[自己表現] B2:他者の視点、他者との協働	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	[抽象的・専門的] B2:自身の専門、 技術的、抽象的	[テキスト・詳細・視点] B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場	[維持・効果的] B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点
B1			[身近な・関心] B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	[テキスト・要点・意見] B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	
A2	[社会参入] A2:やや能動的な生活者	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する B1:はっきりとした共通語 A2:はっきりとゆっくり A1:非常にゆっくり	[具体的・日常的] A2:日常、予測可能な、 直接関係ある A1:個人的情報、 自分自身に関する	[単純・表現・大まか] A2:よく使われる文・表現、 簡単なメッセージの要点 A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	[受動的] A2:やや能動的 A1:受け身
A1					

赤字部分を参考に①記述文のどこに、②各レベルのどのような特徴が、表れているかを指摘しましょう。

活動	言語能力記述文	レベル
話すこと（やり取り）	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話合いができる。通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	A2
	言葉を殊更探さずに流ちょうに自然に自己表現ができる。社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言に合わせることもできる。	C1
	流ちょうに自然に会話をすることができ、熟達した日本語話者と普通にやり取りができる。身近なコンテキスト（文脈・背景）の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。	B2
	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができ、直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	A1

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	【高度な言語・談話能力】 C1:流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加	制約を受けずに 課題遂行が可能	【全般】 C1:複雑、高度	【長文・詳細・構成】 C1:精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意	【流暢に・正確に】 C1:流暢さ、発言権の保持 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い
B2	【自己表現】 B2:他者の視点、他者との協働	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	【抽象的・専門的】 B2:自身の専門、 技術的、抽象的	【テキスト・詳細・視点】 B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場	【維持・効果的】 B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点
A2	【社会参入】 A2:やや能動的な生活者	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する A2:はっきりとゆっくり	【具体的・日常的】 A2:日常、予測可能な、 直接関係ある	【単純・表現・大まか】 A2:よく使われる文・表現、 簡単なメッセージの要点	【受動的】 A2:やや能動的
A1	A1:受け身の個人	A1:非常にゆっくり	A1:個人的情報、 自分自身に関する	A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	A1:受け身

赤字部分を参考に①記述文のどこに、②各レベルのどのような特徴が、表れているかを指摘しましょう。

活動	言語能力記述文	レベル
話すこと（発表）	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	A2
	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	B2
	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	A1
	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。	B1

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
B2	[自己表現] B2:他者の視点、他者との協働 B1:個性を持った個人、自立した生活者	制約を受けながらも自らの関わり方でかえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	[抽象的・専門的] B2:自身の専門、技術的、抽象的	[テキスト・詳細・視点] B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場	[維持・効果的] B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点
B1		相手の話し方や環境が言語活動を制約する	[身近な・関心] B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	[テキスト・要点・意見] B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
A2	[社会参入] A2:やや能動的な生活者 A1:受け身の個人	B1:はっきりとした共通語	[具体的・日常的]	[単純・表現・大まか]	
A1		A2:はっきりとゆっくり A1:非常にゆっくり	A2:日常、予測可能な、 直接関係ある A1:個人的情報、 自分自身に関する	A2:よく使われる文・表現、 簡単なメッセージの要点 A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	[受動的] A2:やや能動的 A1:受け身

赤字部分を参考に①記述文のどこに、②各レベルのどのような特徴が、表れているかを指摘しましょう。

活動	言語能力記述文	レベル
書くこと	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。短い個人的な手紙なら書くことができる:例えば礼状など。	A2
	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。	A1
	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 私信で経験や印象を書くことができる。	B1

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
B2	[自己表現] B2:他者の視点、他者との協働 B1:個性を持った個人、 自立した生活者	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	[抽象的・専門的] B2:自身の専門、 技術的、抽象的 [身近な・関心] B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	[テキスト・詳細・視点] B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場 [テキスト・要点・意見] B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	[維持・効果的] B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点 B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
B1		相手の話し方や環境が 言語活動を制約する			
A2	[社会参入] A2:やや能動的な生活者 A1:受け身の個人	B1:はっきりとした共通語 A2:はっきりとゆっくり A1:非常にゆっくり	[具体的・日常的] A2:日常、予測可能な、 直接関係ある A1:個人的情報、 自分自身に関する	[単純・表現・大まか] A2:よく使われる文・表現、 簡単なメッセージの要点 A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	[受動的] A2:やや能動的 A1:受け身
A1					

ワーク3：「日本語教育の参照枠Can do」のレベルを把握する



解説

ワーク3 「日本語教育の参照枠 Can do」のレベルを把握する

続いて「日本語教育の参照枠 Can do」のレベルを把握します。下の言語能力記述文のレベルを記入してください。自身の日本語能力や外国語能力、身近な学習者の日本語能力などを意識しながら、作業を進めてください。A2、B1、B2は2レベルに分けられますが、まずはA1 からC2 までの6つのレベルで考えてみてください。

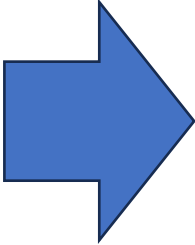
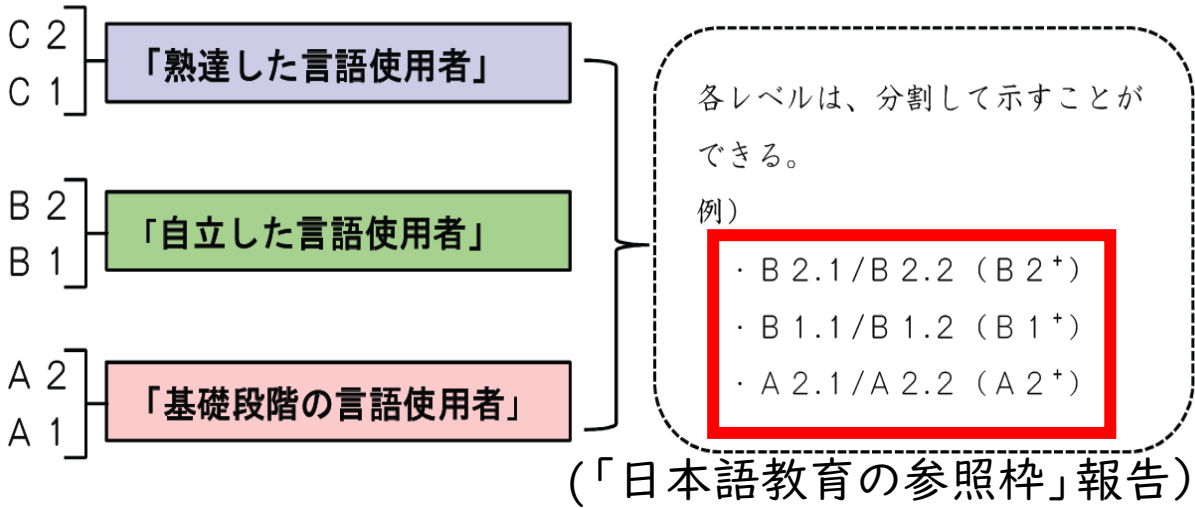
活動	言語能力記述文	レベル
聞く (聴き)	ゆっくりとはっきりと話されれば、予測可能な日常の事柄に関する、 <u>短い録音の一節</u> を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	A2
	自分の <u>専門分野</u> での技術的な議論を含めて、共通語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。	B2.1
	<u>毎日やふだんの仕事上の話題</u> について、簡単な事実関係の情報を理解できる。もし、大体が <u>耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば</u> 、一般的なメッセージも具体的な詳細も理解できる。	B1.2
	当人に向かって、 <u>丁寧にゆっくりと</u> 話された指示なら理解できる。 <u>短い簡単な説明</u> なら理解できる。	A1
読む (読み)	主張のはっきりした論説的テキストの <u>主要な結論</u> を把握できる。	B1.2
	日常のよくある状況下で、簡単な掲示の中から <u>身近な名前や語、基本的な表現</u> が分かる。	A1
	専門用語の意味を確認するために辞書を使うことができれば、自分の専門外であっても専門記事が理解できる。	B2.2
	非常によく用いられる、日常的、若しくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的に身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。	A2
話す (話し)	身近な状況での非公式の議論に積極的に参加し、コメントすること、視点をはっきり示すこと、代替案を評価すること、仮説を立て、また他の仮説に対応することができる。	B2.1
	旅行や、バス、列車、タクシーなどの公共の交通機関についての簡単な情報を得ることができる。 <u>行き方を聞いたり、教えたり</u> することができる。切符を買うことができる。	A2.1
	どこに行くか、何をしたいか、イベントをどのように準備するか（例：外出）などの、 <u>実際的な問題や問いの解決</u> に関して、自分の意見や反応を相手に理解させることができる。	B1.1
	時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、共通語での話は <u>大抵理解</u> できる。	A2.2
	こちらの事情を理解してくれるような話し相手から、はっきりとゆっくりと、繰り返しを交えながら、 <u>直接自分に向けられた話</u> ならば、具体的に単純な必要性を満たすための日常の表現を理解できる。	A1
	自分の <u>関心のある分野</u> に関連した広範囲な話題について、 <u>明確で詳しく述べる</u> ことができる。	B2
書く (書き)	自分の <u>毎日の生活に直接関連のある話題</u> については、リハーサルして短いプレゼンテーションができる。意見、計画、行動に対して、理由を挙げて <u>短く述べる</u> ことができる。	A2.2
	事柄を直線的に並べていって、比較的流暢に、簡単な語り、記述ができる。	B1
	複雑な話題について、明瞭かつ詳細な記述やプレゼンテーションができる。 <u>下位テーマをまとめたり、一定の要点を展開しながら、適当な結論に持っていきたり</u> することができる。	C1
	直接必要なことの用件についての短い、簡単なメモやメッセージを書くことができる。	A2
読む (読み)	いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について <u>明瞭で詳細なテキスト</u> を書くことができる。	B2
	単純につなぎ合わせたテキストで感情や反応を記述し、経験したことを書くことができる。	B1
	ホテルの予約用紙などに、数、日付、自分の名前、国籍、住所、年、生年月日、入国日などを書くことができる。	A1

言語能力記述文(活動Cando)のレベル別特徴

[参考]
塩澤・石司・島田(2010) 福島(2011)

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C2	[高度な言語・談話能力] C2:容易さ、細かなニュアンス 深く社会に参加	制約を受けずに 課題遂行が可能	[全般] C2:ほぼすべて	[長文・詳細・構成] C2:細かいニュアンス、 慣用的表現、俗語	[流暢に・正確に・軽く] C2:軽く、正確に
C1	C1:流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加		C1:複雑、高度	C1:精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意	C1:流暢さ、発言権の保持、 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い
B2	[自己表現] B2:他者の視点、他者との協働	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	[抽象的・専門的] B2:自身の専門、 技術的、抽象的	[テキスト・詳細・視点] B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場	[維持・効果的] B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点
B1	B1:個性を持った個人、 自立した生活者	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する	[身近な・関心] B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	[テキスト・要点・意見] B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	
A2	[社会参入] A2:やや能動的な生活者		[具体的・日常的] A2:日常、予測可能な、 直接関係ある	[単純・表現・大まか] A2:よく使われる、文・表現、 簡単なメッセージの要点	[受動的] A2:やや能動的
A1	A1:受け身の個人	B1:はっきりとした共通語 A2:はっきりとゆっくり A1:非常にゆっくり	A1:個人的情報、 自分自身に関する	A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	

日本語教育の参照枠の9つのレベル



C2	
C1	
B2+	B2.2
B2	B2.1
B1+	B1.2
B1	B1.1
A2+	A2.2
A2	A2.1
A1	

【カテゴリー】によっては「●.1」「●.2」が無いものもある。その場合、「A2」＝「A2.1」と同じ熟達度となる。

活動	カテゴリー	言語能力記述文	レベル
聞くこと	テレビや映画を見ること	映像と実況説明がほとんど重なる ならば、 A2の特徴	A2.2
		出来事や事故を伝えるテレビのニュース番組の 要点 が分かる。 B1の特徴	A2.1
	広報・アナウンスや指示を聞くこと	短い、はっきりとした、簡単なメッセージやアナウンスの要点は聞き取れる。	A2

活動	言語能力記述文	レベル
聞くこと	ゆっくりとはっきりと話されれば、予測可能な日常の事柄に関する、 短い録音の一節 を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	A2
	自分の 専門分野 での技術的な議論を含めて、共通語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。	B2.1
	毎日やふだんの仕事上の話題 について、 簡単な事実関係の情報 を理解できる。もし、大体が 耳慣れた発音で、明瞭に話されていれば 、一般的なメッセージも具体的な 詳細 も理解できる。 B1の特徴 B1の特徴 B1の特徴 B2の特徴	B1.2
	当人に向かって、 丁寧にゆっくりと話された指示 なら理解できる。短い簡単な説明なら理解できる。	A1

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	〔高度な言語・談話能力〕 C1: <u>流暢さ、しっかりした構成、広く社会に参加</u>	制約を受けずに課題遂行が可能	〔全般〕 C1: <u>複雑、高度</u>	〔長文・詳細・構成〕 C1: <u>精緻化、かなり長い、しっかりとした構成、詳細なテキスト、含意</u>	〔流暢に・正確に〕 C1: <u>流暢さ、発言権の保持、豊富な接続表現の使用、効果的な言葉遣い</u>
B2	〔自己表現〕 B2: <u>他者の視点、他者との協働</u> B1: <u>個性を持った個人、自立した生活者</u>	制約を受けながらも自らの関わり方でかえていく B2: <u>読み返すことができれば</u> <u>辞書を使うことができれば</u>	〔抽象的・専門的〕 B2: <u>自身の専門、技術的、抽象的</u> 〔身近な・関心〕 B1: <u>個人的関心、身近な、日常的な、日常の問題に対処</u>	〔テキスト・詳細・視点〕 B2: <u>明確で詳細なテキスト、テキストの詳細、視点・姿勢・立場</u> 〔テキスト・要点・意見〕 B1: <u>短い脈絡のある、単純な結束手段、テキストの要点、個人的な意見・理由</u>	〔維持・効果的〕 B2: <u>意見の補強・維持・発展、根拠・説明・コメント、効果的論述、複数の視点</u> B1: <u>会話の維持、言いたい事をわからせる</u>
B1		相手の話し方や環境が言語活動を制約する B1: <u>はっきりとした共通語</u>			
A2	〔社会参入〕 A2: <u>やや能動的な生活者</u>	A2: <u>はっきりとゆっくり</u> A1: <u>非常にゆっくり</u>	〔具体的・日常的〕 A2: <u>日常、予測可能な、直接関係ある</u> A1: <u>個人的情報、自分自身に関する</u>	〔単純・表現・大まか〕 A2: <u>よく使われる文・表現、簡単なメッセージの要点</u> A1: <u>基本的な語・一節・表現、単純な文、大まかな内容</u>	〔受動的〕 A2: <u>やや能動的</u> A1: <u>受け身</u>
A1	A1: <u>受け身の個人</u>				

活動	言語能力記述文		レベル
読むこと	主張のはっきりした論説的テキストの 主要な結論 を把握できる。		B1.2
	B2の特徴	B1の特徴	
	日常のよくある状況下で、簡単な掲示の中から 身近な名前や語、基本的な表現 が分かる。		A1
	専門用語の意味を確認するために 辞書を使うことができれば 、自分の 専門外 であっても 専門記事が理解できる 。		B2.2
	非常によく用いられる、日常的、若しくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。		A2

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	〔高度な言語・談話能力〕 C1: <u>流暢さ、しっかりした構成、広く社会に参加</u>	制約を受けずに課題遂行が可能	〔全般〕 C1: <u>複雑、高度</u>	〔長文・詳細・構成〕 C1: <u>精緻化、かなり長い、しっかりとした構成、詳細なテキスト、含意</u>	〔流暢に・正確に〕 C1: <u>流暢さ、発言権の保持、豊富な接続表現の使用、効果的な言葉遣い</u>
B2	〔自己表現〕 B2: <u>他者の視点、他者との協働</u> B1: <u>個性を持った個人、自立した生活者</u>	制約を受けながらも自らの関わり方でかえていく B2: <u>読み返すことができれば辞書を使うことができれば</u>	〔抽象的・専門的〕 B2: <u>自身の専門、技術的、抽象的</u> 〔身近な・関心〕 B1: <u>個人的関心、身近な、日常的な、日常の問題に対処</u>	〔テキスト・詳細・視点〕 B2: <u>明確で詳細なテキスト、テキストの詳細、視点・姿勢・立場</u> 〔テキスト・要点・意見〕 B1: <u>短い脈絡のある、単純な結束手段、テキストの要点、個人的な意見・理由</u>	〔維持・効果的〕 B2: <u>意見の補強・維持・発展、根拠・説明・コメント、効果的論述、複数の視点</u> B1: <u>会話の維持、言いたい事をわからせる</u>
B1		相手の話し方や環境が言語活動を制約する			
A2	〔社会参入〕 A2: <u>やや能動的な生活者</u> A1: <u>受け身の個人</u>	B1: <u>はっきりとした共通語</u>	〔具体的・日常的〕 A2: <u>日常、予測可能な、直接関係ある</u> A1: <u>個人的情報、自分自身に関する</u>	〔単純・表現・大まか〕 A2: <u>よく使われる文・表現、簡単なメッセージの要点</u> A1: <u>基本的な語・一節・表現、単純な文、大まかな内容</u>	〔受動的〕 A2: <u>やや能動的</u> A1: <u>受け身</u>
A1		A2: <u>はっきりとゆっくり</u> A1: <u>非常にゆっくり</u>			

活動	言語能力記述文	レベル
読むこと	主張のはっきりした論説的テキストの 主要な結論 を把握できる。	B1.2
	日常のよくある状況下で、簡単な掲示の中から 身近な名前や語、基本的な表現 が分かる。	A1
	専門用語の意味を確認するために 辞書を使うことができれば 、 自分の専門外 であっても 専門記事が理解できる 。 B2の特徴C1の特徴B2の特徴	B2.2
	非常によく用いられる、日常的、若しくは仕事関連の言葉で書かれた、具体的で身近な事柄なら、短い簡単なテキストが理解できる。	A2

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	〔高度な言語・談話能力〕 C1: <u>流暢さ、しっかりした構成、広く社会に参加</u>	制約を受けずに課題遂行が可能	〔全般〕 C1: <u>複雑、高度</u>	〔長文・詳細・構成〕 C1: <u>精緻化、かなり長い、しっかりとした構成、詳細なテキスト、含意</u>	〔流暢に・正確に〕 C1: <u>流暢さ、発言権の保持、豊富な接続表現の使用、効果的な言葉遣い</u>
B2	〔自己表現〕 B2: <u>他者の視点、他者との協働</u>	制約を受けながらも自らの関わり方でかえていく B2: <u>読み返すことができれば、辞書を使うことができれば</u>	〔抽象的・専門的〕 B2: <u>自身の専門、技術的、抽象的</u> 〔身近な・関心〕	〔テキスト・詳細・視点〕 B2: <u>明確で詳細なテキスト、テキストの詳細、視点・姿勢・立場</u> 〔テキスト・要点・意見〕	〔維持・効果的〕 B2: <u>意見の補強・維持・発展、根拠・説明・コメント、効果的論述、複数の視点</u>
B1	B1: <u>個性を持った個人、自立した生活者</u>	相手の話し方や環境が言語活動を制約する	B1: <u>個人的関心、身近な、日常的な、日常の問題に対処</u>	B1: <u>短い脈絡のある、単純な結束手段、テキストの要点、個人的な意見・理由</u>	B1: <u>会話の維持、言いたい事をわからせる</u>
A2	〔社会参入〕 A2: <u>やや能動的な生活者</u>	B1: <u>はっきりとした共通語</u> A2: <u>はっきりとゆっくり</u> A1: <u>非常にゆっくり</u>	〔具体的・日常的〕 A2: <u>日常、予測可能な、直接関係ある</u> A1: <u>個人的情報、自分自身に関する</u>	〔単純・表現・大まか〕 A2: <u>よく使われる文・表現、簡単なメッセージの要点</u> A1: <u>基本的な語・一節・表現、単純な文、大まかな内容</u>	〔受動的〕 A2: <u>やや能動的</u> A1: <u>受け身</u>
A1	A1: <u>受け身の個人</u>				

活動	言語能力記述文	レベル
話すこと（やり取り）	身近な状況での非公式の議論に積極的に参加し、コメントすること、視点をはっきり示すこと、代替案を評価すること、仮説を立て、また他の仮説に対応することができる。	B2.1
	旅行や、バス、列車、タクシーなどの公共の交通機関についての簡単な情報を得ることができる。行き方を聞いたり、教えたりすることができる。切符を買うことができる。	A2.1
	どこに行くか、何をしたいか、イベントをどのように準備するか（例：外出）などの、実際的な問題や問いの解決に関して、自分の意見や反応を相手に理解させることができる。	B1.1
	時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、 A2の特徴 身近な事柄について、はっきりとした共通語での話は大抵理解できる。 B1の特徴	A2.2
	こちらの事情を理解してくれるような話し相手から、はっきりとゆっくりと、繰り返しを交えながら、直接自分に向けられた話ならば、具体的に単純な必要性を満たすための日常の表現を理解できる。	A1

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	【高度な言語・談話能力】 C1:流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加	制約を受けずに課題遂行が可能	【全般】 C1:複雑、高度	【長文・詳細・構成】 C1:精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意	【流暢に・正確に】 C1:流暢さ、発言権の保持 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い
B2	【自己表現】 B2:他者の視点、他者との協働	制約を受けながらも自らの関わり方でかえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	【抽象的・専門的】 B2:自身の専門、 技術的、抽象的	【テキスト・詳細・視点】 B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場	【維持・効果的】 B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点
B1	B1:個性を持った個人、 自立した生活者	相手の話し方や環境が言語活動を制約する	【身近な・関心】 B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	【テキスト・要点・意見】 B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
A2	【社会参入】 A2:やや能動的な生活者		【具体的・日常的】 A2:日常、予測可能な、 直接関係ある	【単純・表現・大まか】 A2:よく使われる文・表現、 簡単なメッセージの要点	【受動的】 A2:やや能動的
A1	A1:受け身の個人		A1:個人的情報、 自分自身に関する	A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	A1:受け身

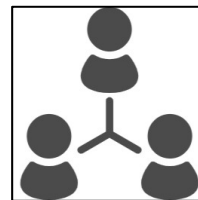
活動	言語能力記述文	レベル
話すこと（発表）	自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確で詳しく述べることができる。	B2
	自分の毎日の生活に直接関連のある話題については、リハーサルして短いプレゼンテーションができる。	A2.2
	A2の特徴	
	意見、計画、行動に対して、理由を挙げて短く述べることができる。	
	B1の特徴	
	事柄を直線的に並べていって、比較的流ちょうに、簡単な語り、記述ができる。	B1
	複雑な話題について、明瞭かつ詳細な記述やプレゼンテーションができる。下位テーマをまとめたり、一定の要点を展開しながら、適当な結論に持っていきたりすることができる。	C1

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	〔高度な言語・談話能力〕 C1:流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加	制約を受けずに 課題遂行が可能	〔全般〕 C1:複雑、高度	〔長文・詳細・構成〕 C1:精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意	〔流暢に・正確に〕 C1:流暢さ、発言権の保持 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い
B2	〔自己表現〕 B2:他者の視点、他者との協働 B1:個性を持った個人、 自立した生活者	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	〔抽象的・専門的〕 B2:自身の専門、 技術的、抽象的	〔テキスト・詳細・視点〕 B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場	〔維持・効果的〕 B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点 B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
B1		相手の話し方や環境が 言語活動を制約する B1:はっきりとした共通語 A2:はっきりとゆっくり A1:非常にゆっくり	〔身近な・関心〕 B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	〔テキスト・要点・意見〕 B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	
A2			〔具体的・日常的〕 A2:日常、予測可能な、 直接関係ある A1:個人的情報、 自分自身に関する	〔単純・表現・大まか〕 A2:よく使われる文・表現、 簡単なメッセージの要点 A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	
A1	〔社会参入〕 A2:やや能動的な生活者 A1:受け身の個人				〔受動的〕 A2:やや能動的 A1:受け身

活動	言語能力記述文	レベル
書くこと	直接必要なことの用件についての短い、簡単なメモやメッセージを書くことができる。	A2
	いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテキストを書くことができる。	B2
	単純につなぎ合わせたテキストで感情や反応を記述し、経験したことを書くことができる。	B1
	ホテルの予約用紙などに、数、日付、自分の名前、国籍、住所、年、生年月日、入国日などを書くことができる。	A1
A1の特徴		

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	〔高度な言語・談話能力〕 C1:流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加	制約を受けずに 課題遂行が可能	〔全般〕 C1:複雑、高度	〔長文・詳細・構成〕 C1:精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意	〔流暢に・正確に〕 C1:流暢さ、発言権の保持 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い
B2	〔自己表現〕 B2:他者の視点、他者との協働 B1:個性を持った個人、 自立した生活者	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	〔抽象的・専門的〕 B2:自身の専門、 技術的、抽象的 〔身近な・関心〕 B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	〔テキスト・詳細・視点〕 B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場 〔テキスト・要点・意見〕 B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	〔維持・効果的〕 B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点 B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
A2		B1:はっきりとした共通語 A2:はっきりとゆっくり	〔具体的・日常的〕 A2:日常、予測可能な、 直接関係ある A1:個人的情報、 自分自身に関する	〔単純・表現・大まか〕 A2:よく使われる文・表現、 簡単なメッセージの要点 A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	〔受動的〕 A2:やや能動的 A1:受け身
A1	A2:やや能動的な生活者 A1:受け身の個人	A1:非常にゆっくり			

ワーク4：「生活Can do」のレベルを把握する



ワーク

ワーク4 「生活Can do」のレベルを把握する

最後に「生活Can do」のレベルを把握します。下の言語能力記述文にレベルを記入してください。身近な学習者の日本語能力などを念頭に置きながら、作業を進めてみてください。その後、以下のことについて考えてみましょう。

- * 「全体的な尺度」、「言語活動別の熟達度」で日本語能力の熟達度を評価するときに注意点について
- * 「日本語教育の参照枠Can do」と「生活Can do」との違いについて
- * 「言語活動別の熟達度」、能力Can do、方略Can do、テキストCan doをどのように活用するかについて

活動	言語能力記述文	レベル
聞く (聴く)	インフルエンザなど、最近流行している病気に関するテレビニュースなどを見て、映像やテロップを頼りに、予防法や対処法など、 <u>主要な情報を理解</u> することができる。	B1
	自分に向かって <u>ゆっくり</u> とはっきりと話されれば、「口を大きく開けてください」、「よく休んでください」、「薬を1日3回飲んでください」など、医師の <u>ごく簡単な指示</u> を聞いて、理解することができる。	A1
	好きなスポーツに関するテレビニュースなどを見て、試合の勝敗や好きな選手の活躍など、内容を <u>大まかに理解</u> することができる。	A2
読む (読む)	イラストなどの手掛かりがあれば、街中や施設内にある「禁煙」「立入禁止」「撮影禁止」「工事中」「危険」などの <u>非常に短い注意書きや看板</u> を見て、警告されている内容を確認することができる。	A1
	現在関わっている業務に関する <u>簡単な新聞記事</u> などを読んで、 <u>主要な情報を理解</u> することができる。	B1
	職場の壁やドアに掲示された <u>指示や規則</u> などの <u>短い簡単な説明</u> を読んで、禁止事項や注意事項など、 <u>いくつかの情報を理解</u> することができる。	A2
	専門用語の意味を確認するために辞書を使うことができれば、雇用契約書や労働条件通知書などを読んで、福利厚生や手当の内容を理解することができる。	B2
話す (しゃべり) 取り	友人に、これから住みたいところやその理由などについて、 <u>短い簡単な言葉</u> でコメントや質問をしたり、 <u>答えたり</u> することができる。	A2
	職場の懇親会などで初めて会った人に話しかけ、趣味や仕事など身近な話題について質問したり、質問にある程度詳しく答えたりして、会話を続けることができる。	B1
	飲食店に入ったとき、人数と、喫煙席か禁煙席などの希望を店員に言うことができる。	A1
	不動産業者などでの住居探しの際、入居条件等について担当者に <u>詳細を確認</u> し、差別的な入居資格など、納得のいかない点について、 <u>代案や譲歩案</u> などを述べながら交渉することができる。	B2
話す (しゃべり) 両方	自分が被害を受けた盗難などの予期しないトラブルについて、警察官や近所の人などに <u>順序立てて詳細に述べ</u> ることができる。	B1
	子供の学校行事などで他の保護者に、子供から聞いたクラスの様子や子供の家での様子などを、 <u>短い簡単なことばで話す</u> ことができる。	A2
書く (書く)	見本があれば、はがきや封筒に、宛名や差出人の住所や名前を書くことができる。	A1
	分からないことについて質問することができれば、病院の受付で、問診票に名前や住所、体温を書いたり、「どんな症状か」「いつからか」などの選択式の <u>簡単な質問</u> に答えたりすることができる。	A2
	自分自身の長所や短所など、簡単な自己PR文を就職のための提出書類に書くことができる。	B1

言語能力記述文(活動Cando)のレベル別特徴

【参考】
塩澤・石司・島田(2010) 福島(2011)

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C2	[高度な言語・談話能力] C2:容易さ、細かなニュアンス 深く社会に参加	制約を受けずに 課題遂行が可能	[全般] C2:ほぼすべて C1:複雑、高度	[長文・詳細・構成] C2:細かいニュアンス、 慣用的表現、俗語 C1:精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意	[流暢に・正確に・軽く] C2:軽く、正確に C1:流暢さ、発言権の保持 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い
C1	C1:流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加				
B2	[自己表現] B2:他者の視点、他者との協働	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	[抽象的・専門的] B2:自身の専門、 技術的、抽象的 [身近な・関心] B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	[テキスト・詳細・視点] B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場 [テキスト・要点・意見] B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	[維持・効果的] B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点 B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
B1	B1:個性を持った個人、 自立した生活者				
A2	[社会参入] A2:やや能動的な生活者	B1:はっきりとした共通語 A2:はっきりとゆっくり A1:非常にゆっくり	[具体的・日常的] A2:日常、予測可能な、 直接関係ある A1:個人的情報、 自分自身に関する	[単純・表現・大まか] A2:よく使われる、文・表現、 簡単なメッセージの要点 A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	[受動的] A2:やや能動的 A1:受け身
A1	A1:受け身の個人				



赤字部分を参考に①記述文のどこに、
②各レベルのどのような特徴が表れているかを
指摘しましょう。

赤字部分を参考に①記述文のどこに、②各レベルのどのような特徴が、表れているかを指摘しましょう。

活動	言語能力記述文				レベル
聞くこと	インフルエンザなど、最近流行している病気に関するテレビニュースなどを見て、 話題 日常的・個人的関心 映像やテロップを頼りに、予防法や対処法など、主要な情報を理解することができる。 条件・制約 あり 対象 要点				B1
	自分に向かってゆっくりとはっきりと話されれば、「口を大きく開けてください」、「よく休んでください」、「薬を1日3回飲んでください」など、医者のごく簡単な指示を聞いて、理解することができる。				A1
	好きなスポーツに関するテレビニュースなどを見て、試合の勝敗や好きな選手の活躍など、内容を大まかに理解することができる。				A2
	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	【高度な言語・談話能力】 C1:流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加	制約を受けずに 課題遂行が可能	【全般】 C1:複雑、高度	【長文・詳細・構成】 C1:精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意	【流暢に・正確に】 C1:流暢さ、発言権の保持 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い
B2	【自己表現】 B2:他者の視点、他者との協調	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	【抽象的・専門的】 B2:自身の専門、 技術的、抽象的	【テキスト・詳細・視点】 B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場	【維持・効果的】 B2:意見の補強・維持・発展、 根拠、説明、コメント
B1	B1:個性を持った個人、 自立した生活者	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する B1:はっきりとした共通語	【身近な・関心】 B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	【テキスト・要点・意見】 B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	効果的論述、複数の視点 B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
A2	【社会参加】 A2:やや能動的な生活者		【具体的・日常的】 A2:日常、予測可能な、 直接関係ある	【単純・表現・大まか】 A2:よく使われる文・表現、 簡単なメッセージの要点	【受動的】 A2:やや能動的
A1	A1:受け身の個人	A1:非常にゆっくり	A1:個人的情報、 自分自身に関する	A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	A1:受け身

赤字部分を参考に①記述文のどこに、②各レベルのどのような特徴が、表れているかを指摘しましょう。

活動	言語能力記述文				レベル
読むこと	イラストなどの手掛かりがあれば、街中や施設内にある「禁煙」「立入禁止」「撮影禁止」「工事中」「危険」などの非常に短い注意書きや看板を見て、警告されている内容を確認することができる。				A1
	現在関わっている業務に関する簡単な新聞記事などを読んで、主要な情報を理解することができる。				B1
	職場の壁やドアに掲示された指示や規則などの短い簡単な説明を読んで、禁止事項や注意事項など、いくつかの情報を理解することができる。				A2
	専門用語の意味を確認するために辞書を使うことができれば、雇用契約書や労働条件通知書などを読んで、福利厚生や手当の内容を理解することができる。				B2
	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	【高度な言語・談話能力】 C1: 流暢さ、しっかりした構成、広く社会に参加	制約を受けずに課題遂行が可能	【全般】 C1: 複雑、高度	【長文・詳細・構成】 C1: 精緻化、かなり長い、しっかりとした構成、詳細なテキスト、含意	【流暢に・正確に】 C1: 流暢さ、発言権の保持、豊富な接続表現の使用、効果的な言葉遣い
B2	【自己表現】 B2: 他者の視点、他者との協働 B1: 個性を持った個人、自立した生活者	制約を受けながらも自らの関わり方でかえていく B2: 読み返すことができれば辞書を使うことができれば	【抽象的・専門的】 B2: 自身の専門、技術的、抽象的	【テキスト・詳細・視点】 B2: 明確で詳細なテキスト、テキストの詳細、視点・姿勢・立場	【維持・効果的】 B2: 意見の補強・維持・発展、根拠・説明・コメント、効果的論述、複数の視点 B1: 会話の維持、言いたい事をわからせる
B1		相手の話し方や環境が言語活動を制約する	【身近な・関心】 B1: 個人的関心、身近な、日常的な、日常の問題に対処	【テキスト・要点・意見】 B1: 短い脈絡のある、単純な結束手段、テキストの要点、個人的な意見・理由	
A2	【社会参入】 A2: やや能動的な生活者	B1: はっきりとした共通語 A2: はっきりとゆっくり A1: 非常にゆっくり	【具体的・日常的】 A2: 日常、予測可能な、直接関係ある	【単純・表現・大まか】 A2: よく使われる文・表現、簡単なメッセージの要点	【受動的】 A2: やや能動的
A1	A1: 受け身の個人		A1: 個人的情報、自分自身に関する	A1: 基本的な語・一節・表現、単純な文、大まかな内容	A1: 受け身

赤字部分を参考に①記述文のどこに、②各レベルのどのような特徴が、表れているかを指摘しましょう。

活動	言語能力記述文	レベル
話すこと（やり取り）	友人にこれから住みたいところやその理由などについて短い簡単な言葉でコメントや質問をしたり、答えたりすることができる。	A2
	職場の懇親会などで初めて会った人に話しかけ、趣味や仕事など身近な話題について質問したり、質問にある程度詳しく答えたりして、会話を続けることができる。	B1
	飲食店に入ったとき、人数と、喫煙席か禁煙席かなどの希望を店員に言うことができる。	A1
	不動産業者などでの住居探しの際、入居条件等について担当者に <u>詳細を確認し</u> 、 差別的な入居資格など、納得のいかない点について、 <u>代案や譲歩案などを述べながら交渉する</u> ことができる。	B2

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	〔高度な言語・談話能力〕 C1: <u>流暢さ、しっかりした構成、</u> <u>広く社会に参加</u>	制約を受けずに 課題遂行が可能	〔全般〕 C1: <u>複雑、高度</u>	〔長文・詳細・構成〕 C1: <u>精緻化、かなり長い、</u> <u>しっかりとした構成、</u> <u>詳細なテキスト、含意</u>	〔流暢に・正確に〕 C1: <u>流暢さ、発言権の保持</u> <u>豊富な接続表現の使用、</u> <u>効果的な言葉遣い</u>
B2	〔自己表現〕 B2: <u>他者の視点、他者との協働</u>	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2: <u>読み返すことができれば</u> <u>辞書を使うことができれば</u>	〔抽象的・専門的〕 B2: <u>自身の専門、</u> <u>技術的、抽象的</u>	〔テキスト・詳細・視点〕 B2: <u>明確で詳細なテキスト、</u> <u>テキストの詳細、</u> <u>視点・姿勢・立場</u>	〔維持・効果的〕 B2: <u>意見の補強・維持・発展、</u> <u>根拠・説明・コメント、</u> <u>効果的論述、複数の視点</u>
B1	B1: <u>個性を持った個人、</u> <u>自立した生活者</u>	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する	〔身近な・関心〕 B1: <u>個人的関心、</u> <u>身近な、日常的な、</u> <u>日常の問題に対処</u>	〔テキスト・要点・意見〕 B1: <u>短い脈絡のある、</u> <u>単純な結束手段、</u> <u>テキストの要点、</u> <u>個人的な意見・理由</u>	B1: <u>会話の維持、</u> <u>言いたい事をわからせる</u>
A2	〔社会参入〕 A2: <u>やや能動的な生活者</u>		〔具体的・日常的〕 A2: <u>日常、予測可能な、</u> <u>直接関係ある</u>	〔単純・表現・大まか〕 A2: <u>よく使われる文・表現、</u> <u>簡単なメッセージの要点</u>	〔受動的〕 A2: <u>やや能動的</u>
A1	A1: <u>受け身の個人</u>		A1: <u>個人的情報、</u> <u>自分自身に関する</u>	A1: <u>基本的な語・一節・表現、</u> <u>単純な文、大まかな内容</u>	A1: <u>受け身</u>

赤字部分を参考に①記述文のどこに、②各レベルのどのような特徴が、表れているかを指摘しましょう。

活動	言語能力記述文	レベル
話すこと（発表）	自分が被害を受けた盗難などの予期しないトラブルについて、 警察官や近所の人などに順序立てて詳細に述べることができる。	B1
	子供の学校行事などで他の保護者に、子供から聞いた <u>クラスの様子や子供の家での様子</u> などを、 <u>短い簡単なことばで</u> 話すことができる。	A2

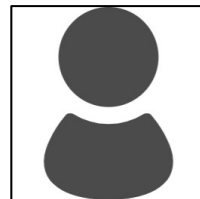
	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	〔高度な言語・談話能力〕 C1: <u>流暢さ、しっかりした構成、</u> <u>広く社会に参加</u>	制約を受けずに 課題遂行が可能	〔全般〕 C1: <u>複雑、高度</u>	〔長文・詳細・構成〕 C1: <u>精緻化、かなり長い、</u> <u>しっかりとした構成、</u> <u>詳細なテキスト、含意</u>	〔流暢に・正確に〕 C1: <u>流暢さ、発言権の保持</u> <u>豊富な接続表現の使用、</u> <u>効果的な言葉遣い</u>
B2	〔自己表現〕 B2: <u>他者の視点、他者との協働</u> B1: <u>個性を持った個人、</u> <u>自立した生活者</u>	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2: <u>読み返すことができれば</u> <u>辞書を使うことができれば</u>	〔抽象的・専門的〕 B2: <u>自身の専門、</u> <u>技術的、抽象的</u> 〔身近な・関心〕 B1: <u>個人的関心、</u> <u>身近な、日常的な、</u> <u>日常の問題に対処</u>	〔テキスト・詳細・視点〕 B2: <u>明確で詳細なテキスト、</u> <u>テキストの詳細、</u> <u>視点・姿勢・立場</u> 〔テキスト・要点・意見〕 B1: <u>短い脈絡のある、</u> <u>単純な結束手段、</u> <u>テキストの要点、</u> <u>個人的な意見・理由</u>	〔維持・効果的〕 B2: <u>意見の補強・維持・発展、</u> <u>根拠・説明・コメント、</u> <u>効果的論述、複数の視点</u> B1: <u>会話の維持、</u> <u>言いたい事をわからせる</u>
A2	〔社会参入〕 A2: <u>やや能動的な生活者</u>	B1: <u>はっきりとした共通語</u> A2: <u>はっきりとゆっくり</u> A1: <u>非常にゆっくり</u>	〔具体的・日常的〕 A2: <u>日常、予測可能な、</u> <u>直接関係ある</u>	〔単純・表現・大まか〕 A2: <u>よく使われる文・表現、</u> <u>簡単なメッセージの要点</u>	〔受動的〕 A2: <u>やや能動的</u>
A1	A1: <u>受け身の個人</u>		A1: <u>個人的情報、</u> <u>自分自身に関する</u>	A1: <u>基本的な語・一節・表現、</u> <u>単純な文、大まかな内容</u>	A1: <u>受け身</u>

赤字部分を参考に①記述文のどこに、②各レベルのどのような特徴が、表れているかを指摘しましょう。

活動	言語能力記述文	レベル
書くこと	見本があれば、はがきや封筒に、宛名や差出人の住所や名前を書くことができる。	A1
	分からないことについて質問することができれば、病院の受付で、問診票に名前や住所、体温を書いたり、「どんな症状か」「いつからか」などの選択式の簡単な質問に答えたりすることができる。	A2
	自分自身の長所や短所など、簡単な自己PR文を就職のための提出書類に書くことができる。	B1

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C1	【高度な言語・談話能力】 C1: <u>流暢さ、しっかりした構成、</u> <u>広く社会に参加</u>	制約を受けずに 課題遂行が可能	【全般】 C1: <u>複雑、高度</u>	【長文・詳細・構成】 C1: <u>精緻化、かなり長い、</u> <u>しっかりとした構成、</u> <u>詳細なテキスト、含意</u>	【流暢に・正確に】 C1: <u>流暢さ、発言権の保持</u> <u>豊富な接続表現の使用、</u> <u>効果的な言葉遣い</u>
B2	【自己表現】 B2: <u>他者の視点、他者との協働</u>	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2: <u>読み返すことができれば</u> <u>辞書を使うことができれば</u>	【抽象的・専門的】 B2: <u>自身の専門、</u> <u>技術的、抽象的</u>	【テキスト・詳細・視点】 B2: <u>明確で詳細なテキスト、</u> <u>テキストの詳細、</u> <u>視点・姿勢・立場</u>	【維持・効果的】 B2: <u>意見の補強・維持・発展、</u> <u>根拠・説明・コメント、</u> <u>効果的論述、複数の視点</u>
B1	B1: <u>個性を持った個人、</u> <u>自立した生活者</u>	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する B1: <u>はっきりとした共通語</u>	【身近な・関心】 B1: <u>個人的関心、</u> <u>身近な、日常的な、</u> <u>日常の問題に対処</u>	【テキスト・要点・意見】 B1: <u>短い脈絡のある、</u> <u>単純な結束手段、</u> <u>テキストの要点、</u> <u>個人的な意見・理由</u>	B1: <u>会話の維持、</u> <u>言いたい事をわからせる</u>
A2	【社会参入】 A2: <u>やや能動的な生活者</u>		【具体的・日常的】 A2: <u>日常、予測可能な、</u> <u>直接関係ある</u>	【単純・表現・大まか】 A2: <u>よく使われる文・表現、</u> <u>簡単なメッセージの要点</u>	【受動的】 A2: <u>やや能動的</u>
A1	A1: <u>受け身の個人</u>		A1: <u>個人的情報、</u> <u>自分自身に関する</u>	A1: <u>基本的な語・一節・表現、</u> <u>単純な文、大まかな内容</u>	A1: <u>受け身</u>

ワーク5：具体的な言語行動からレベルを判定する 「つながる ひろがる にほんごでの暮らし」



個人

TSUNAHIRO

「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト

つながるひろがる
にほんごでの暮らし

文化庁広報誌「ふんかる」
キャラクター
ぶんちゃん

日本に住む外国人を対象とした、
生活のための日本語が学べる日本語学習サイトです。

WEBサイトはこちら
PC SP 対応

tsunagarujp.bunka.go.jp

202303 日本語

言語能力記述文(活動Cando)のレベル別特徴

【参考】
塩澤・石司・島田(2010) 福島(2011)

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
C2	〔高度な言語・談話能力〕 C2:容易さ、細かなニュアンス 深く社会に参加	制約を受けずに 課題遂行が可能	〔全般〕 C2:ほぼすべて C1:複雑、高度	〔長文・詳細・構成〕 C2:細かいニュアンス、 慣用的表現、俗語 C1:精緻化、かなり長い、 しっかりとした構成、 詳細なテキスト、含意	〔流暢に・正確に・軽く〕 C2:軽く、正確に C1:流暢さ、発言権の保持、 豊富な接続表現の使用、 効果的な言葉遣い
C1	C1:流暢さ、しっかりした構成、 広く社会に参加				
B2	〔自己表現〕 B2:他者の視点、他者との協働	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2:読み返すことができれば 辞書を使うことができれば	〔抽象的・専門的〕 B2:自身の専門、 技術的、抽象的 〔身近な・関心〕 B1:個人的関心、 身近な、日常的な、 日常の問題に対処	〔テキスト・詳細・視点〕 B2:明確で詳細なテキスト、 テキストの詳細、 視点・姿勢・立場 〔テキスト・要点・意見〕 B1:短い脈絡のある、 単純な結束手段、 テキストの要点、 個人的な意見・理由	〔維持・効果的〕 B2:意見の補強・維持・発展、 根拠・説明・コメント、 効果的論述、複数の視点 B1:会話の維持、 言いたい事をわからせる
B1	B1:個性を持った個人、 自立した生活者				
A2	〔社会参加〕 A2:やや能動的な生活者	B1:はっきりとした共通語 A2:はっきりとゆっくり A1:非常にゆっくり	〔具体的・日常的〕 A2:日常、予測可能な、 直接関係ある A1:個人的情報、 自分自身に関する	〔単純・表現・大まか〕 A2:よく使われる、文・表現、 簡単なメッセージの要点 A1:基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	〔受動的〕 A2:やや能動的 A1:受け身
A1	A1:受け身の個人				



①動画を見て、②求められるレベルを判定しましょう。

①動画を見て、②求められるレベルを判定しましょう。

6-1. なんめいさまですか。
言語行動: レストランの入り口で、店員の質問を理解し、応答する。

サンプル

オウさんが行う言語行動についてレベル判定をしましょう。



レベル		
A1	A2	B1

<https://tsunagarujp.bunka.go.jp/level01/a03>

①動画を見て、②求められるレベルを判定しましょう。

6-1. なんめいさまですか。

言語行動：レストランの入り口で、店員の質問を理解し、応答する。

サンプル

オウさんが行う言語行動についてレベル判定をしましょう。

レベル

A1



自分自身に関する話題

レストラン店員：いらっしゃいませ。

レストラン店員：お客様は何名様ですか。

オウ：2人です。

基本的な語

受動的

レストラン店員：おタバコは吸われますか。

オウ：いいえ、吸いません。

単純な文

レストラン店員：それでは、こちらへどうぞ。

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
B1	〔自己表現〕 B1: <u>個性を持った個人、自立した生活者</u>	相手の話し方や環境が言語活動を制約する B1: <u>はっきりとした共通語</u>	〔身近な・関心〕 B1: <u>個人的関心、身近な、日常的な、日常の問題に対処</u>	〔テキスト・要点・意見〕 B1: <u>短い脈絡のある、単純な結束手段、テキストの要点、個人的な意見・理由</u>	〔維持・効果的〕 B1: <u>会話の維持、言いたい事をわからせる</u>
A2	〔社会参入〕 A2: <u>やや能動的な生活者</u>	A2: <u>はっきりとゆっくり</u> A1: <u>非常にゆっくり</u>	〔具体的・日常的〕 A2: <u>日常、予測可能な、直接関係ある、</u>	〔単純・表現・大まか〕 A2: <u>よく使われる文・表現、簡単なメッセージの要点</u>	〔受動的〕 A2: <u>やや能動的</u>
A1	A1: <u>受け身の個人</u>		A1: <u>個人的情報、自分自身に関する</u>	A1: <u>基本的な語・一節・表現、単純な文、大まかな内容</u>	A1: <u>受け身</u>

『生活Cando』の類似した言語能力記述文

通番	生活上の行為の事例					レベル	言語活動	カテゴリー	Can do
	大分類	中分類	小分類	事例1 (上位項目)	事例2 (下位項目)				
128	Ⅲ消費活動を行う	05物品購入・サービスを利用する	(08)●物品購入・サービスを利用する	0802飲食店を利用する	0802080店で人数や禁煙・喫煙などの希望を伝える	A1	やり取り	製品やサービスを得るための取引	飲食店に入ったとき、人数と、喫煙席か禁煙席かなどの希望を店員に言うことができる。

①動画を見て、②求められるレベルを判定しましょう。

3-2. じてんしゃのとうなさんがおおいみたいですよ

言語行動: 自転車の施錠方法など防犯対策について、質問する。

自転車の施錠方法についての説明や手順を理解する。

アンジェラさんが行う言語行動についてレベル判定をしましょう。



レベル		
A1	A2	B1

<https://tsunagarujp.bunka.go.jp/level03/c07>



スクリプト		
隣人：最近、このあたり、自転車の盗難が多いみたいですよ。		身近な 日常的な話題
アンジェラ：え～、そうなんですか。		
アンジェラ：わたし、自転車、買ったばかりなんです。		
隣人：鍵、ちゃんとつけておいた方がいいですよ。		
アンジェラ：つけてます。これです。		会話の維持
隣人：あ～、もう1つつけたほうが安心かもしれませんよ。		
アンジェラ：え、鍵2つつけるんですか？		言いたいことを わからせる
隣人：ほら、私も「ツーロック」、2つ、つけてますよ。		
アンジェラ：2つつけるの、めんどくさいですね。		個人的な 意見・理由
隣人：そうでもないですよ。ここにこうやって、こうするだけです。		
アンジェラ：ふ～ん、簡単そうですけど、私、めんどくさがりだからなあ。		
隣人：ちょっと、やってみます？どうぞ。		
アンジェラ：あ、はい。これは、こうやってつけばいいですか。		レベル B I
隣人：そうそう。		
アンジェラ：で、外すときはここを回せばいいってことですね。		
隣人：はいはい。		
アンジェラ：慣れれば、そんなにめんどくじゃないかも。この程度だったら、自転車を盗まれるよりはいいかな。		

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
B2	〔自己表現〕 B2:他者の視点、他者との協働	制約を受けながらも 自らの関わり方で かえていく B2: <u>読み返すことができれば</u> <u>辞書を使うことができれば</u>	〔抽象的・専門的〕 B2: <u>自身の専門、</u> <u>技術的、抽象的</u>	〔テキスト・詳細・視点〕 B2: <u>明確で詳細なテキスト、</u> <u>テキストの詳細、</u> <u>視点・姿勢・立場</u>	〔維持・効果的〕 B2: <u>意見の補強・維持・発展、</u> <u>根拠・説明・コメント、</u> <u>効果的論述、複数の視点</u>
B1	B1: <u>個性を持った個人、</u> <u>自立した生活者</u>	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する B1: <u>はっきりとした共通語</u>	〔身近な・関心〕 B1: <u>個人的関心、</u> <u>身近な、日常的な、</u> <u>日常の問題に対処</u>	〔テキスト・要点・意見〕 B1: <u>短い脈絡のある、</u> <u>単純な結束手段、</u> <u>テキストの要点、</u> <u>個人的な意見・理由</u>	B1: <u>会話の維持、</u> <u>言いたい事をわからせる</u>

『生活Cando』の類似した言語能力記述文

通番	生活上の行為の事例					レベル	言語活動	カテゴリー	Can do
	大分類	中分類	小分類	事例1 (上位項目)	事例2 (下位項目)				
513	VII 人とかわる	14 他者との関係を円滑にする	(31) ●人と付き合う	3101 あいさつをする	3101140 世間話をする	B1	やり取り	非公式の議論(友人との)	最近の地域のニュースやイベントなど身近な話題について、近所の人や友人と簡単なコメントや意見を交換することができる。

①動画を見て、②求められるレベルを判定しましょう。

6-1. ちょうないかいのかいらんばんです
言語行動: 回覧板や町内会について隣人に聞く。
教えてもらった情報を理解する。

アンジェラさんが行う言語行動についてレベル判定をしましょう。



レベル		
A1	A2	B1

<https://tsunagarujp.bunka.go.jp/level02/b03>



スクリプト		
アンジェラ:おはようございます。鈴木さん。		
同僚・隣人:おはようございます。アンジェラさん。		
アンジェラ:それは何ですか。		
同僚・隣人:町内会の回覧板ですよ。	日常的な話題	
アンジェラ:町内会って、何ですか。		
同僚・隣人:同じ地域に住んでいる人たちの会です。いろんな活動をしているんですよ。		
アンジェラ:ふ〜ん…。	やや能動的	
同僚・隣人:ほら、町内会の行事やお知らせとか書いてあるんですよ。		
アンジェラ:そうですか。		
アンジェラ:あ、これはバーベキューですか。		
同僚・隣人:あ、そうそう。		
アンジェラ:楽しそうですね。私も参加できますか。	文・表現	
同僚・隣人:はい。でも、アンジェラさん、もう町内会に入りましたか。		
アンジェラ:いいえ、まだです。どうやったら、入れますか。	レベル	
同僚・隣人:このあたりは3班だから…あそこの高橋さんちで聞いてみ		
アンジェラ:はい、あとで行ってみます。	A2	

	特徴	条件・制約	話題・場面	対象・単位	行動
A2	〔社会参入〕 A2: やや能動的な生活者	相手の話し方や環境が 言語活動を制約する A2: はっきりとゆっくり	〔具体的・日常的〕 A2: 日常、予測可能な、 直接関係ある、	〔単純・表現・大まか〕 A2: よく使われる、文・表現、 簡単なメッセージの要点	〔受動的〕 A2: やや能動的
A1	A1: 受け身の個人	A1: 非常にゆっくり	A1: 個人的情報、 自分自身に関する	A1: 基本的な語・一節・表現、 単純な文、大まかな内容	A1: 受け身

『生活Cando』の類似した言語能力記述文

通 番	生活上の行為の事例					レ ベル	言語活動	カテゴリー	Can do
	大分類	中分類	小分類	事例1 (上位項目)	事例2 (下位項目)				
613	VIII 社会の一員 となる	16 地域社会に 参加する	(35) ●地域社会に 参加する	3501 自治会行 事に参加・ 協力する	3501050 自治会の会員 になる	A2	やり取り	情報の交換	会報や回覧板をきっかけに、住んでいる地域の自治会・町内会について、どんな活動をしているか、どうしたら会員になれるかなど、近所の人に短い簡単な言葉で質問をしたり、答えたりすることができる

この時間のまとめ

Can do① 「参照枠」の言語観、言語教育観を理解する。
多様性の中の統合・社会的存在・行動中心アプローチ

Can do② 「参照枠」の6つのレベル、Candoの特徴を理解する。
全体的な尺度・言語活動別の熟達度・言語能力記述文
活動Candoの4要素・レベルごとの特徴

参考文献

Council of Europe (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*.

Goullier, F.(2007) .*Council of Europe tools for language teaching*. Didier.

Wilkins, D. A. (1976). Notional syllabuses: A taxonomy and its relevance to foreign language curriculum development. Oxford University press. (和訳版:島岡丘訳(1984)『ノーションナルシラバス』桐原書店/オックスフォード)

Richards, J.C. and T.S. Rogers (2001) *Approaches and Methods in Language Teaching (2nd Edition)*, CUP (和訳版:アントニー・アルジェイミー・高見澤孟監訳(2007)『アプローチ&メソッド 世界の言語教授・指導法』東京書籍)

欧州評議会 (2014) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』追補版, 吉島茂, 大橋理枝 (訳・編) 朝日出版社

塩澤真季・石司えり・島田徳子 (2010) 「言語能力の熟達度を表すCan-do記述の分析—JF Can-do 作成のためのガイドライン策定に向けて—」『国際交流基金日本語教育紀要』6, 23-39.

福島青史 (2011) 「社会参加のための日本語教育とその課題 -EDC、CEFR、日本語能力試験の比較検討から-」『早稲田日本語教育学』10, 1-19.

文化審議会国語分科会 (2021) 「日本語教育の参照枠 報告」(令和3年10月12日報告)